

学校の教育目標 **進んで学び 心豊かで 元気な児童の育成**

評価段階 4・・・よくできている(頻繁に行っている) 3・・・だいたいできている(かなり行っている) 2・・・あまりできていない(時々行っている) 1・・・できていない(ほとんど行っていない)

3. 6・・・90% 3. 2・・・80% 3. 1以下・・・79%以下

重点目標	実践事項	具体的方策・手立て・内容	R4自己評価(平均)				昨年度	分析・考察(○) 改善策(☆)	学校関係者評価委員会の意見	学校関係者評価	
			児童	教師	保護者	平均					全体
【 確かな学力の定着 】 進んで学ぶ子	日常授業の改善	文章や問題の読解力を鍛える授業の工夫	3.4	2.9	3.4	3.2	3.3	3.2	○授業研究や校内研究を行うことにより、個別最適な学びと協同的な学びを意識した授業を実施することができた。 ○校内研修を深めることにより、ICTを目的の手段として活用する意識が高まった。主題研究等の内容の共通理解が図られて、ICTをしっかりと活用した授業になっている。 ☆かがやきタイムで使う教材は、児童の実態を把握した上で適切な教材を選択した方がよい。 ○登校後、読書タイムを設けたところ、読書への感心が高まり、落ち着いた気持ちで始業時を過ごすことができた。学校図書貸出冊数が、昨年の1.3倍以上増えた。 ☆読書量の多い児童とそうでない児童の差が依然として大きい。今後、子どもたち自身が本当に読みたい本、興味のある本等の購入を更に進めていきたい。 ○廃棄した本を希望する保護者に提供したところ、非常に好評であった。	○廃棄本の活用は、とてもよい行いだと思いました。 ○夏休みに実施されている「かがやきスクール」や高校見学に行った「かがやきハイスクール」は、児童にとって学習への意識が高まり、とても良いと思う。今後も継続して行ってほしい。 ○スマホやYouTube等が情報の主流になる中、読書への興味も高まったのは、とても良いことだと思う。空想や想像の世界の楽しさを十分に味わってほしいと願う。 ○図書貸出冊数が、昨年の1.3倍以上に増えたというのはすばらしい。 ○人数が少ないので、より個別的授業をしていただいていると思います。 ○タブレットを小・中・高生が持ち帰るようになり、混乱もあります。	3.9
		4+4のチェックポイントを基盤とした授業の構築	3.5	3.0	3.3	3.3					
		少人数を生かした「見届け」指導の徹底	3.2	3.5	3.3	3.3					
		主体的・対話的で深い学びへの転換	3.5	2.9	3.2	3.3					
		ICTを活用した授業改善	3.8	3.2	3.4	3.5					
	基礎的・基本的学習内容の定着	かがやきタイムを活用した徹底指導	3.6	3.0	3.3	3.3					
		読書の推奨	3.2	3.2	2.8	3.1					
特別支援教育の充実	迅速なケース会議の開催と取り出し指導の工夫	3.3	3.6	3.5	3.5						
一貫教育の推進と外部との連携	地域素材や地域人材の活用及び外部との連携	3.1	3.7	3.4	3.4						
【 心の豊かな子 】 心豊かな子	基本的な生活習慣の定着	素早く静かな廊下歩行	3.4	2.5	3.0	3.0	3.3	3.2	・落ち着きがない。集中力がない。メリハリがない。先生と児童生徒の関係が友達感覚(親しい仲にも礼儀あり)。 ・施設入所の児童が多いため、まわりの目を気にしている感じが強い。心が安まる時間・場所不足か・・・心のケアの必要性(学校がすべきかわからないが・・・親族等からの無償の愛の欠乏) ○基本的な指導内容については、日常指導はもちろん、道徳教育を中心に指導・支援を強化していくことが重要である。 ☆基本的な生活習慣の定着については、教師の指導と見届けを確実にやっていくことが必要である。 ☆あいさつについては、今後『あいさつ+1』への取組も考えていきたい。 ☆規範意識・安全意識の向上については、定期的な地区別集団下校で充実した指導が行われてきている。今後も継続していきたい。	○施設入所児童のケアは、施設のみでなく、学校・地域全体で行って当然だと思う。 ○年々、家庭における情緒安定の基礎は、弱くなってきており、特に施設児童の中で愛着障がい、発達障がいの占める割合が高くなってきている。先生方の愛着・発達障がいへの理解が、今まで以上に必要である。	3.3
		先取りあいさつや場に応じた言葉遣い	3.4	2.4	3.4	3.2					
		清掃活動による学校磨きと心磨き	3.8	3.0	3.3	3.3					
		使った後の整理整頓	3.8	2.9	2.8	3.2					
	いじめのない学校づくり	全教師が全児童に「かかわる」 迅速な実態把握(心タイム)	3.8	3.7	3.6	3.7					
		温かな言葉遣いを意識した学校生活	3.6	2.6	3.7	3.3					
	規範意識・安全意識の向上	登下校指導の徹底(集団登下校)	3.8	3.0	3.4	3.4					
交通安全及び防災教育の充実		3.8	3.1	3.5	3.5						
【 たくましい体 】 元気な子	基礎体力の向上	運動時間を保障した体育科授業の充実	3.6	3.2	3.4	3.4	3.3	3.2	☆体力テストの結果の活用について十分な取り組みがなされていなかったため、特に落ち込みがみられる項目については、体づくり運動と絡めて提示していくようにしたい。 ☆複数の競技やニュースポーツなども取り入れ、楽しく体づくりができるような工夫もしていきたい。 ○昼休みの外遊びの奨励については、日常的に異学年交流が図られていることから、十分な成果が上がっていると考えられる。	○自然の中にある学校なので、校庭などで伸び伸びと身体を動かして、様々な遊びを楽しんで、健康的に過ごしてほしい。 ○コロナ禍の中先生方も色々大変だったと思います。ご迷惑おかけしました。 ○スマートフォン等の普及により、性情報が小さい頃から得られやすくなっています。先手を打った性教育が必要かと思えます。	3.9
		体力テストの結果を受けた指導及び個別指導の充実	2.7	2.7	2.7						
	健康教育の充実	生活の中でできる運動の推奨(ちよこっと運動等) 昼休みの外遊びの奨励	3.4	2.9	3.2	3.2					
		基本的な生活習慣の定着 (早寝・早起き、朝ごはん、歯みがき等)	3.5	3.1	3.3	3.5					
		3.8	3.8	3.8	3.8						
		衛生的な生活及びコロナ禍での安全教育の充実	3.9	3.2	3.6	3.6					
		食育指導の推進の充実	3.5	3.2	3.1	3.3					
校内安全教育の充実	性に関する指導の充実	3.2	3.2	3.2	3.2						
	定期的な安全点検の徹底と確実な改善 校内安全指導の推進	3.8	3.3	3.5	3.5						
【 家庭と連携 】 家庭と連携	家庭及び友愛園における家庭学習の見届け	3.7	3.0	3.1	3.3	3.2	3.0	○学級園の整備や清掃等、子どもたちは本当によく働いてくれた。 ☆本年度もコロナ禍のため、みどりの少年団の活動が制限された。次年度は、学校周辺や通学路の清掃や花植など、感染対策をしながらもできる活動を工夫し、取り組んでいきたい。	○コロナも5類扱いになるので、またいろいろな活動に取り組めるのではないかと思います。 ○友愛園の子ども達に特別の配慮をいただき、ありがとうございます。	3.4	
	みどりの少年団による地域への貢献	2.9	2.9	2.9							
	花植えや清掃活動	3.2	3.7	3.5							
石井記念友愛社との連携及び地域の福祉施設(菜花園)、保育園との計画的な交流	友愛社や菜花園、保育園等との連携	3.2	3.7	3.5	3.5						
	学校、学級便り、HPの効果的な活用	3.4	3.3	3.4	3.4						
【自由記述欄】 ○ 穂北との交流ももっと増やしてほしい。 ○ 学年通信が少ない為クラスの状況が子ども伝えずにわからない。先生から見ての様子や行事等ある時はだしてほしいです。通信がないならホームページでも良いので。 ○ 役員が集まる頻度を減らして欲しい。								☆今後は穂北小学校だけではなく、中学校統合を見据えて色々な学校と交流していくことになります。(R6年度は修学旅行を妻小・穂北小と合同で行う予定) ☆家庭数等の減少を見据えて、PTAの組織の見直しや会議の精選等検討していきたい。	○特認校への手続き、大変な仕事だったと思います。これからの為になる事を願います。		